

2022年度 事業計画概要

特定非営利活動法人
日本環境倶楽部

1. 事業環境と活動方針

2021年は、新型コロナウイルスの感染収束の見えない中にありながらも、世界がカーボンニュートラル社会経済の実現にむけた新たな決意を確認したエポックメイキングな年となりました。エネルギー転換に向けたシナリオや技術革新が盛んに議論され、これらを後押しする金融の世界も大きく変容しました。

2022年は、目標設定されたGHG削減に向けた実際の行動を着実なものとするのが一層問われる年となることが想定されます。ロシアのウクライナ侵攻は世界に大きな混乱を与え経済戦争にも拡大しつつあり世界の脱炭素の流れは一時的に停滞することも予想されますが、長期的にみればカーボンニュートラル社会への移行は決意をもって取り組むべき課題である事に変わりありません。国は具体的で実効のある政策の発出、企業は責任あるコミットメントとその実践や情報開示が要請されます。また、気候変動にとどまらず資源循環や生物多様性の保全についても新たなイニシアティブへの積極的な取り組みが求められることが想像に難くありません。

日本環境倶楽部は、このような認識の下、会員皆様のご支援により、昨年にも増し、環境課題を中心とした社会課題の解決に資する、啓蒙、啓発、研究活動を推進してまいります。

2. 取り組む事業

- ・気候変動対応、資源循環、生物多様性保全等のSDGs達成に資するセミナー・講演会を定期的に実施してまいります。開催にあたっては産官学より該当テーマのキーマンに講師をお願いするなど、時宜をとらえた内容とし一層の充実を図ってまいります。
- ・個別テーマを深耕していく研究会を開催し、ご参加頂く各社様の事業戦略の参考や事業機会の探索の場を提供してまいります。
- ・コロナウイルス感染の状況次第ではありますが見学会を開催し、三現主義の実践を通じ、経営や技術の向上・改善に資する、機会を提供します。
- ・会員及びその他の方々にこれらの活動に参画頂く事によりネットワーク拡大を目指します。
- ・25周年記念事業を内部留保取り崩しにより実施する事を織り込んでおります。

3. 予算の概要

	(千円)			
摘要	2022年度 予算(A)	2021年度 決算見込み(B)	差異 (A)-(B)	2020年度 実績
経常収益	4,171	3,777	+394	2,862
経常費用 (内事業費)	4,645 (3,986)	3,315 (2,652)	+1,330 (+1,334)	2,687 (2,131)
経常収支	-474	462	-936	+175
期末正味財産	2,173	2,647	-474	2,188

詳細は別紙の活動予算書をご参照ください

-以上-

2022年度 活動予算書
2022年4月1日から2023年3月31日まで

特定非営利活動法人日本環境倶楽部
(単位:円)

科目	金額		
I. 経常収益			
1. 受取会費	4,146,000		
2. 受取寄附金	0		
3. 事業収益	25,000		
4. 雑収入	0		
経常収益計			4,171,000
II. 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費	828,080		
(2)その他経費			
交通費	12,000		
修繕費	0		
通信費	86,560		
地代・家賃	59,840		
消耗品費	114,400		
印刷費	74,000		
外注費	1,609,600		
レンタル・リース費	701,920		
講師謝金	463,200		
会議費	36,000		
その他経費計	3,157,520		
事業費計		3,985,600	
2. 管理費			
(1)人件費	207,020		
(2)その他経費			
交通費	3,000		
修繕費	0		
通信費	21,640		
地代・家賃	14,960		
消耗品費	28,600		
印刷費	1,000		
外注費	317,400		
レンタル・リース費	480		
図書費	3,000		
会議費	9,000		
他団体会費	40,440		
租税公課	3,000		
交際費	0		
雑費	9,860		
減価償却費	0		
その他経費計	452,380		
管理費計		659,400	
経常費用計			4,645,000
当期経常増減額			-474,000
III. 経常外収益			
経常外収益計			0
IV. 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			-474,000
法人税、住民税及び事業税			0
前期繰越正味財産額			2,647,277
次期繰り越正味財産額			2,173,277

(注)前期繰越正味財産額は本予算書策定時の見込です